

塩尻駅開業95周年記念誌

おかげさまで95周年

D 51 498

1997,12,15

塩尻駅開業95周年記念事業実行委員会



塩尻駅開業 95周年事業を顧みて

塩尻駅長 一ノ瀬 陸 美

塩尻駅開業95周年・新駅移転15周年記念事業が、全て大盛会のうちに終了することができまして、本当に有り難うございました。

一年間という長い期間のイベントでありましたが、三沢市長様はじめ塩尻市の関係する皆様の後押しに支えられ、あらゆる歯車がうまくかみ合って連携し、協力して頂いた賜物です。

記念事業実行委員会が発足した頃は、皆で「手作りのイベントをやろう、地味でも良いではないか、派手さは無いが一つ一つ着実に取り組んでいこう」という事でスタートとしました。

当初、五月に一回のみの運行予定であった「信州循環記念号」でしたが、昔のディーゼル循環急行を懐かしんで申込みが殺到し、七月まで計四回の運転で延べ五六〇名の参加を頂くという大盛況でした。当日は車内クイズやら野辺山駅でのとん汁サービスなどがあり、大変に好評を得る事ができました。

また、四季折々のイベントを計画、芸人祭in塩尻とタイアップをしてミニSLの運転、七夕飾り、ぶどう収穫祭、短歌フォーラム、北斗星で行く北海道の旅、鳴門阿波踊り、菊花展、更に特別臨時列車で塩尻市民号等関係者の皆様の協力により全て成功しました。色々なイベントに回を重ねることに「次も頑張ろうね」というムードになり熱が入っていききました。

特にSL「善知鳥峠号」の運転に関しては、全ての皆様が関心を持ちそれぞれのアイデアで、真剣に取り組んでいただき、どこに行っても、それぞれのボジションで精一杯頑張っていたいただきました。あの勇壮なSLの姿、黒い煙を上げて下西條の大曲を駆け上がって行く姿を見ると、懐かしさと、緊張感で身震いをしたほどでした。

最後のSL「善知鳥峠号」が塩尻駅を発車した時は、実行委員会の皆様と共に

にホームに立って、列車の最後部が見えなくなるまで手を振って別れを惜しみました。この時の感動は体全体に伝わってきました。

今後も塩尻駅の先輩が築いた優れた風土を大切に、大きな変化にも対応しながら一生懸命に頑張っていきたいと思えます。私たち塩尻駅社員一同は、「親しまれ、愛される駅」作りを目指し、「生活と文化の成熟された田園都市」塩尻市の玄関口に相応しい駅作りに頑張る所存です。

今回の塩尻駅開業95周年記念事業には、多くの皆様の心暖まるご協力に對しまして敬意を表し、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。



塩尻駅開業 95周年に寄せて

塩尻市長 三 沢 光 広

塩尻駅開業95周年、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

また、今日まで塩尻駅の発展のために日夜ご尽力されました歴代駅長さんをはじめ、多くの駅員さん並びに関係の皆さんに深甚なる敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

塩尻市は、日本のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝の地として発展を遂げてまいりました。塩尻駅は中央東線、西線、篠ノ井線の分岐点となっており、まさに交通の要として歴史を刻み街づくりに大きく貢献されてきました。

駅は、街の玄関口と言われますが、特に塩尻市は、明治35年の塩尻駅開設と同時に大門中央通りが建設され、大門商店街が形成されました。主力産業としての、電子、精密、機械産業の発展の礎となったのも鉄道の開業が牽引となっており、また、物資の輸送だけでなく、文化や情報の受発信、観光の拠点として鉄道が大きな役割を担ってきました。

塩尻駅は、駅の移転開業という大事業も経験しました。街の拠点が移転するという事は、大きな問題であり、関係地域の皆さんはもとより当時の駅関係者

のご労苦に敬意を表します。このことが、まちづくりを皆で考えることや駅と地域との関係をより親密なものにしたと思います。

塩尻駅のホームや駅への街路の歩道には、特産のブドウが植えられており、市内の高校生の皆さんなどにより手入れがされ、また、駅前には、障害者福祉センターすみれの丘の皆さんや地域の皆さんによる花壇を設けるなど利用客の皆さんをあたたく出迎えるとともに、駅は地域の皆さんとの交流の場としてともに歩んでまいりました。

本年一年間各種団体の皆さんによる記念事業実行委員会が組織され、大門商店街との共催イベントとして、多くの行事が盛大に実施されましたことに、重ねてお礼申し上げます。

モータリゼーションの進展や生活形態の変化などから鉄道事業は厳しい状況にあると思いますが、大量輸送、低公害、正確な時間という鉄道の特徴は、地球環境保全の点からもこれからの交通運輸手段に活かされるものと期待しております。

塩尻駅が今後ますます地域の人々に愛され一層発展されますことをお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。



塩尻駅開業 九十五周年を迎えて

東日本旅客鉄道株式会社
取締役 長野支社長 原 恒雄

このたび塩尻駅が開業九十五周年を迎えることができました。これも地域の皆様の暖かいご支援とご協力の賜と深く感謝申し上げます。昨年四月三十日には、三沢塩尻市長様が会長となり、塩尻駅開業九十五周年・新駅移転十五周年記念事業実行委員会が設立され、皆様のご協力のもと数々の記念行事が挙行されましたことに対し、心からお礼申し上げます。

塩尻駅は、明治三十五年十二月十五日篠ノ井線が全通し営業を開始しました。停車場の建設に当たっては、位置、取り付け道路問題、あるいは工事に際して

の用地買収、資材の調達等、当時の地元の皆様の並々ならぬご努力をいただきました。

中央東・西線、篠ノ井線の接続駅でスイッチバックの駅として親しまれてまいりましたが、一方では輸送上大きな支障も生じており、解消のために地元の皆様のご理解とご尽力をいただき、昭和五十七年五月十七日新駅舎を建築、移転し今日に至っております。

塩尻駅は、東京・名古屋方面と信州各地をつなぐ、文化、産業、経済の中継駅としての役割を果たしておりますが、今後も益々その役割は大変重要となつてまいります。

当社も発足十年が経過し、鉄道事業を基軸とした総合サービス企業として、地元の皆様に愛される企業を目指し、日々努力を重ねてまいりました。

平成九年十月長野行新幹線が、当初の計画通り無事に開業しその後も順調に推移しています。この開業によりまして、東日本管内の高速鉄道体系の骨格がほぼ完成しました。東京と長野が従来の半分の時間で結ばれ、県下における経済活動の活性化が図られ、新しい移動の形態、新しい文化との触れ合いが開け、地域の特性を生かし魅力ある長野県が誕生するものと思えます。

塩尻駅が、塩尻市のご繁栄とともに益々発展することを祈念し、今後も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。塩尻駅開業九十五周年のお祝いの言葉いたします。



塩尻駅開業 95周年に寄せて

塩尻商工会議所会頭 小松 守

塩尻駅開業95周年を迎え、心からお祝いを申し上げます。一世紀に及ぶ長い歴史の中にあつて、駅は市民の生活の拠点でもありました。人・物・情報の拠点として、その時代時代を見つめてきた歴史の証人でもあります。「停車場」「駅」という言葉の響きの中に、人々はそれぞれの青春時代の想いが込められ

てもいます。

古来から塩尻は、塩の道の終着地であったように、人や物が往来する要衝でありました。中山道や善光寺街道、三州街道が通り、それぞれの街道にはいくつかの宿場町が発展したのが塩尻であります。

現在はモータリゼーションの進展によって国道19号線や20号線、153号線、長野中央道等に生まれ変わり、鉄道は明治35年12月、国鉄篠ノ井線を皮切りに中央東線、中央西線と発展し、爾来東線西線の分岐点として重要な位置を占めるとともに、駅を中心にして街が形成され、塩尻駅が塩尻市の経済や文化の発展に寄与してきたことは他言を待たない次第であります。

この長い歴史で特筆すべきは、昭和57年7月の塩尻駅の新駅移転開業であります。街づくりの形成が大きく変化したことは、駅の果たす役割がいかに重要であるかを再認識させられたことでもあります。

塩尻はこれからも高速交通網、高度情報網の拠点になる可能性を秘めております。人・物・金・情報の拠点の役割の重要な役目を、塩尻駅は期待されていきます。

開業95周年を迎え、あらためて塩尻駅が地域の大事な資産であることを市民は認識し、また塩尻駅が今後も地域の人々に愛され親しまれる駅としてますますご発展されることをご祈念申し上げます。



塩尻駅開業 九十五周年によせて

塩尻市観光協会会長 丸山 泰

塩尻駅開業九十五周年を心からお慶び申し上げます。塩尻駅が今日あるのは、歴代駅長さんを始め、九十五年の長きにわたり駅を守り、駅を支えて頂いた数多くの方々のおかげであり、これらの皆様に深甚な敬意を表します。

私達のような昭和生まれにとっては、九十五年前の開業当時の模様など知るべくもありませんが、他の交通機関が未発達の時、いち早く塩尻駅が開業し

た事は、塩尻の発展を示唆する、正にエポックメイキングな出来事であった事でしょう。往時の写真を目にする時、駅に集い開業を祝う人々の顔、駅周辺で殷賑を極める町の様子を伺い知ることができます。子供の頃の記憶にも、駅舎内外の賑やかさ、放射状の石畳が美しい駅前広場、蒸気機関車の汽笛や轟音、噴煙の臭いなどが今でも鮮明に残っています。

開業当時のそうした駅の印象もさりながら、塩尻駅はまた当時の経済活動の中心でもありました。人や物資はもちろん、新しい文化や多大な情報までもが駅を通じてもたらされてきました。いわば駅は新しい未知の世界へ私達を誘う不思議な出入口でありました。永々と休む事なく続けられた業務は、今日の塩尻の経済や文化を支えた重要な礎石の一つであることは言うまでもありません。星霜移り、県内では数多くの特急が走り、長野新幹線も開業となりました。他の交通機関について言えば、高速道路網の整備により膨大な量の物資がトラック輸送で行われています。空の玄関松本空港は、六定期路線を持ち、その速さ故に多くの人々を運んでいます。開業当時とは比べものにならない多くの人的・物的移動が毎日のように行われています。いずれも時代の要請から起こってきた現象で、鉄道もまた新時代に対処して行かねばなりません。大量輸送、正確な時間、安全性という従来の利点に加え、時間短縮、サービス向上等の新しい対応が望まれる所であります。

塩尻駅が市の表玄関として、人々に愛され親しまれて益々発展されることを祈念します。



塩嶺ルート・ 新駅開業に思いを寄せて

国鉄 三十六代駅長 石坂 照雄

塩尻駅が、明治三十五年に開業して、今年九十五周年のめでたい大きな節目を迎えられましたこと、まずもって心よりお喜び申し上げます。

私が塩尻駅へ勤務させて頂いたのは、昭和五十七年三月から三年間です。実

はこの間に塩尻駅が開駅以来希にみる大変革がなされたといっても過言ではないと思っております。

当時の塩尻駅は、旧駅舎から松本方へ五〇〇メートル移動して新駅を開業させる工事が、昭和四十九年から始められ、いよいよ開業に向け最終段階に入った、極めて重要な時期で、異常な緊迫感に包まれておりました。

そして、この新駅開業だけでもそれこそ大変な大仕事なのに、加えてその翌年（58年）には、これまた幾多の難問・難工事に直面しながらも、地元の皆様との御協力や関係者の並々ならぬご努力によって、待望久しい塩嶺ルートが開通になり、さらなる大仕事が続く、私の前任の幾代かの先輩の皆様が、それぞれの任期中最重点の課題として取り組んでこられ、血のじむような努力と苦勞を積み重ねて築き進めてこられた、そのあとを担うことになって、未知と不安だらけでしたが、何としても計画通りに、そして無傷に完成させ、有終の美をもって締めくりたいと悲願しながらも、その与えられた職責の重さに身がふるえ、悲壮な決意で着任したものでした。

私は旧国鉄に四十年間勤めさせて頂きました。その後半の二十年間に長野駅・継電化ほか、大きな工事に幾度か携わってきましたが、新駅開業・塩嶺開通、双方いずれも劣らぬ、これ程までの大規模なそして難工事はかつて経験ありませんでした。

その新駅開業が、工事着工以来七年六ヶ月を経て五月十七日に決まり、十六日夜から最後の切換工事が開始されました。これはすごいとしかいいようなく、局長自ら現対本部長として指揮をとられ、新旧駅構内六ヶ所の線路切替を主体とした、おおがかりかつ難工事を要員総勢一、三〇〇名の総力を結集した努力によって、五月十七日塩尻新駅が計画通り無事に開業を迎えることができました。まさに後世にいつまでも残る大切替工事でありました。

一夜の大激闘終わって夜が明けかけた頃、初列車の下りちくま号が、スイッチバックが解消され、中央西線洗馬方から六番線へ入線して、松本方へスムーズに通り返けたのを送迎し、ただ感慨無量そして「本当によかった。よくここまで無事に」心底からこの一言がすべてでした。

その新駅が開業して早十五年。機会あって訪れる毎に駅頭に立っては、北アルプスをバックにその険しい山なみをかたどり、山肌と雲・雪を連想して、茶褐色と白で調和されたモダンな駅舎を眺めながら、当時をしのび、懐かしく想い出しております。



塩嶺ルート・ 新駅開業に思いを寄せて

国鉄 塩尻運輸長 上 水 義 雄

私が塩尻運輸長室にお世話になったのは、昭和五十五年三月から五十九年三月までの四年間で、在任中は今に較べて特に寒さが厳しく（諏訪育ちで寒さには自信があったが）新築された大門三番町の宿舍も冬期は結露で鉄製の玄関ドアが凍り、朝の出勤時には熱湯をかけなければ開閉が不能であったこともしばしばであった。また在任中に塩嶺ルートの開通・新塩尻駅の開業を迎えることが出来た事は、私の四十年の国鉄生活の中でも思い出の多い四年間であった。当時、塩尻・岡谷地区では中央東線の運転時間短縮のための塩嶺ルートの開通と、塩尻駅を広丘方に移転、新駅での開業を目指しての工事が最盛期を迎えようとしていた。また当時は国鉄の転換期で、労資関係も荒れていた時期でもあり、昼夜を問わず頻繁に行われた切換工事の要員手配に苦勞し、管内外の管理者には大きな負担をかけたことも記憶に新しい。業者を含め千人を超す大きな切換工事も数十回を数え、これらの切換も無事故で乗り越えたことの充実感は今に新しいものがある。

平成九年十二月十五日でJR塩尻駅は開業九十五周年を迎えるとのこと。明治五年に新橋―横浜間に鉄道が開通して今年で百二十五年。一世紀と1/4を経たことになる。昔からひとつの交通機関の盛衰は百年と言われてきたが、塩尻駅も一世紀になんなんとする。長野県も本年十月一日、待望の新幹線が開業となる一方で、信越線の軽井沢―篠ノ井間が県下初の第三セクター方式が導入され、全国的にも注目されることになった。やがて迎える新しい世紀に向けての鉄道

は地域社会との共存である。地域の行政・住民に愛され「おらが町の駅」として共に発展することが求められる姿であろう。最近報道される交通機関の事故は、鉄道を問わず海・空ともに増加している感がある。交通機関の最大の課題は「安全」である。安全なくして交通機関の信頼は存在しない。「安全は輸送業務の最大の使命である」ことを痛感する。

おわりに、新駅開業十五周年を迎えるJR塩尻駅が地域の皆さんと共に新しい世紀に向けてさらなる発展を願うものである。在勤中お世話になった西沢・石坂両駅長さんをはじめ、多くの職員皆さんの御多幸と現職の方々のご活躍をお祈りして筆を置きます。



塩尻駅開業 九十五周年に寄せて

塩尻市議会議長 中原 輝 明

塩尻駅の開業九十五周年を心からお慶び申し上げます。この間、塩尻駅発展のため日夜御尽力されました歴代駅長さんを始め、多くの駅員さん並びに関係の皆様方に深甚なる敬意を表しますと共に、深く感謝を申し上げます。

顧みますと、明治三十五年十二月、篠ノ井線の松本―塩尻間が開通し、塩尻駅が開業して以来、当地域が塩尻駅とともに発展を遂げてまいりました。その後、東線は明治三十九年六月に東京―塩尻間まで開通、また、西線は明治四十四年五月に名古屋までの全線が開通し、従来の乗り合い馬車や荷馬車等が往来した中山道、北国西街道、三州街道の分岐点として昔から交通の要衝としての利便性を生かし、四つの宿場の面影は、現在も遠い昔の文化を今に伝えておりますが、鉄道の開通によって交通のルートが大幅に変わり、商業地域に変貌をきたし、現在の町並みの基本は、この時に作られたと思われまします。

鉄道の開業は近代化に拍車を掛けたものであり、街路の整備拡張、交通利便の増進等、その後の市政の向上促進に重要な役割を果たし、この地域の産業・経済・文化などを一層躍進させ、塩尻市繁栄の原動力ともなりました。とりわ

け、貨物の発着は、物資の輸送面を飛躍的に増大させ、県内外への移送、販売する物品が増加すると共に、大量の重量貨物の輸送が容易になり、時間の短縮が図られた結果、当地から生石灰が産出されたことから、大工場の立地を可能とさせ、現在の市内企業の誘致が図られたことから、製造品出荷額四千三百四十億九千万円となる繁栄の原動力ともなっており、交通機関としての重要な使命を果たしてきております。

この十月一日に、県内の高速交通時代を加速する北陸新幹線が開業し、長野―東京間が一時間十九分で結ばれたことにより、県下の交通体も大きく変わり、訪れる観光客やビジネスマン等の流れに変化が予想されます。現在、中信念地域においては、二時間以内で松本―新宿間を結ぶ「特急あずさ」の実現のための働き掛けを行っておりますが、一日も早く実現が図られることを願っております。

ここに、塩尻駅開業九十五周年という節目を迎え、市民はもとより訪れる方々に末永く愛され親しまれますと共に、塩尻市の玄関口として益々発展されますことをご祈念申し上げます、お祝いのご挨拶と致します。



おかげさまで 95周年によせて

大門商店街振興組合理事長 加藤 光 久

商店街の歴史を唐突に思いおこさせる一ノ瀬塩尻駅長の提案に、あらためて商店街の歴史を見つめなおし、その変遷を再認識することが出来ました。

今年度の事業計画に若手グループの活躍と女性部の設立がありました。商店街のこれからを担う若者と、実質的な商店の担い手の女性の皆さんのこれからの商店街を考える絶好の機会ととらえ「おかげさまで95周年」をこの一年間のテーマとして一連の事業に取り組んでまいりました。

ミニSLの運行、「パフォーミング・アーツ芸人祭INしおじり」との連帯、SL運行とイベント広場等の開催、そして女性部の設立総会、「明日の大門商店

街を考える」シンポジウムの開催等、大変実りの多い事業を取り組むことが出来ました。

二〇〇二年に迎える100周年に、大門商店街の地域社会に対し果たすべき役割も多くの論議の場を通して見えてまいりました。地域の中で必要とされる商店街づくりをこれからも目指し、努力を続けると同時に、個店、個店のさらなる専門的な情報収集と消費者に必要な商品開発の努力を、なお一層続ける必要を感じています。

このイベントを通し、塩尻駅長さんをはじめ、駅関係の皆さん、塩尻市の皆さん、商工会議所の皆さん、観光協会はじめご協力いただきました多くの皆様にご心から感謝申し上げます、希望に満ちた100周年を迎えることが出来ますことを強く希望いたします。



交通の要衝 塩尻駅

— 思い出の数々 —

日本鉄道OB会塩尻支部長 帯川 佐九郎

駅開業九十五周年を迎え、市を挙げての祈念行事が盛大に行われた。その変遷を残す記念誌の編集に当たり、思い出の数々の主なるものを綴り、当時の背景や状況が少しでも伝わり、記念誌の一頁になればと思います。

昭和十五年のこと、塩尻駅に出頭せよの通知を受けて、勇んで着任しました。先ず地下足袋と巻脚絆と雨合羽が支給され驚いた。構内作業の連結手とのこと。詳しい職制は知らなかったから二度の驚き。しかし貴重な初体験で後に役立った。次に新人養成計画は十日間でしたが、人手がないから三日間で終わり。苦労したのは全国の駅名を覚える事と、石炭燃料のダルマストロブがうまく焚けません。

昭和三十二年に助役の末席で再び勤務。季節輸送最盛期の荷物中継作業、荷物満載の手押車がホーム一杯で、荷物積込みで常時十分くらいは遅れて発車。次にヤード作業で四百両収容程度の狭隘構内でのやりくり算段、昭和電工専用

線へ一列車四十両分の假出置。塩尻独特の第二車両接触限界標を設けての規定違反作業による、貨物列車増発ピーク時対策。次は除草です。構内は草一面で線路に被り貨車ブレーキは利かず滑走の始末。駅長・助役は非番休日返上で除草。管理者の奥さん方も見ては居られないと協力。よき当時は全職員で除草し、草一本なかったものでした。

昭和四十五年、塩尻に首席助役ポストが新設されて、長鉄局運転部から三度目の勤務。生産性を向上して信頼され、愛される国鉄をつくる施策によるものでした。各職員はそれぞれの立場で悩み苦労したものでしたが、長い歳月と経験が、あるべき姿を作り上げるものと、戦後五十年の歴史をつくづく思うのですが、それにしても当時を思う。

駅の移転。駅西部構内の列車発着。機関車の付替出入り作業で輻輳を極め、線路平面交差の線路支障率が限度で、列車増発が望めない事と、狭隘な貨車ヤードを広げる必要性、スイッチバックの解消、併せて塩嶺トンネル、西線、篠ノ井線複線化などから、旅客設備を松本方へ約五百米移転する具体的計画が始まり、この時に長鉄局企画室で、塩尻地区改良計画作業を担当し、駅移転計画に専念した事も忘れられない思い出です。

永い歴史を経ながら、JR移行して十一年目を迎えました。国の総合交通体系のあるべき姿を見極めてのJRの使命と、市の玄関口、塩尻駅の益々の発展を祈念致します。

塩尻駅鉄道スタンプの移りかわり

昭和ひとけたの良き時代の鉄道
スタンプ

昭和55年→



昭和7年↓



↓昭和10年



昭和63年→



中央東線と大糸線の沿線
自治体や関係団体と協力し
(アルプスライン305)
と銘打ったPRスタンプ

昭和28年→



快適な旅行ができるよう
になった昭和二十年代後半、
戦後初の塩尻駅のスタンプ。

星10こ



昭和55年

星8つ

↓昭和40年↓



国鉄のディスプレイ
ジャパンスタンプ
旅客誘致を目的とした
セールスキャンペーン

国鉄からJRへ。
(さわやか信州) ロゴ入り
特大円形スタンプ



↑昭和62年4月1日

昭和50年→

↓昭和45年



←現在使用中のスタンプ

塩尻駅95周年 SL一色に

22日から催し多彩に

大門商店街 お宝鑑定会も

二十三日からの三日間、JR塩尻駅を中心に、塩尻市の大門商店街がSL一色に染まる。同駅とともに九十五周年を迎える商店街が、塩尻―岡谷駅間のSL運行に合わせて多種多様なイベントを展開。わが家のお宝鑑定会やSLグッズの販売など、楽しいイベントが自白押し。市民はもとより、全国の鉄道ファンに呼び寄せた。

イベント SL絵はがきや特産品販売

大門商店街は、二十三日記念として同組合が制作したSL絵はがき（五枚セット）に特設イベント広場を設け、駅利用者などに販促や呼び込みをササグし、ボン

ほか、考える農業学習塾塾生が塩尻特産品を販売。このほか放浪自転車店のオークションも開催される。

二十三日午後一時から、大門一帯のベルウィーホルドでわが家のお宝鑑定会を開催。お宝鑑定の人気テレビ番組の鑑定士で、アンティークが人気店主の木沢雅博さんらが鑑定する。産



塩尻駅と大門商店街は22日から3日間、SL一色に染まる。



準備万全

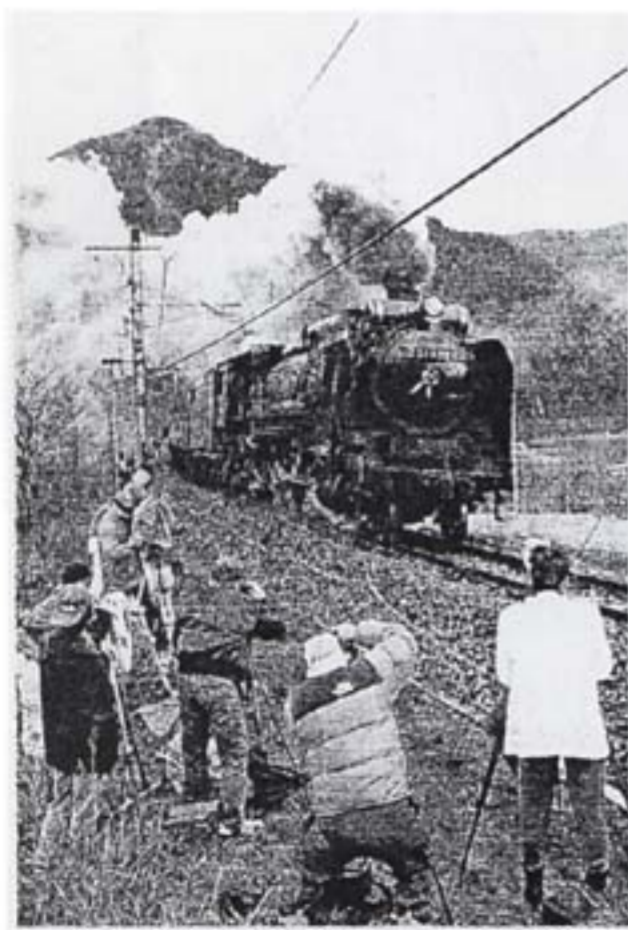
駐車場の整備、イベントのPR、SLの試運転等、準備はすべてOK。試運転の段階からマニアが殺到。

出発式

平成9年
11月22日



■ 善知鳥峠号の出発式を盛大に挙げる。実行委員長（三沢塩尻市長）を始め、大勢の参加のもと、テープカットされました。



鉄道ファンが待ち構えるなか、白煙を上げながら走る「SL善知鳥峠号」

SL善知鳥峠号 白煙上げ力強く

JR塩尻駅開業九十五周年記念列車「SL善知鳥峠号」の運行が二十二日、塩尻一岡谷間（長野県）で始まった。鉄道の歴史として来た塩尻駅の節目を祝うにふさわしく、SLは白煙を上げながら、大勢の鉄道ファンが詰め掛けるなか、晩秋の風景を力強く駆け抜けた。

JR塩尻駅95周年 塩尻一岡谷を運行

JR長野支社が「初秋、色澤州キャンペーン」の機軸を飾るイベントとして企画した。列車はかつてオリエント急行（「Dry」）と、懐かしい「SL」の運行は、SLが定期列車のけん引を担っていたことが初めてという。

開業三周年での出発式は、塩尻キャンペーンレディーによる機軸士、車掌への存続願望、三沢塩尻市長のテープカット、くす玉割りなどが盛り込まれ、四百八十八人を乗せた一番列車「善知鳥峠号」の出発を祝った。

「収穫祭」

松本・中町 蔵シツク館 今
松本市中央の中町、蔵シツク館が開いている。今年のは二十三日、「収穫祭」を企画し、今年初の店じまいをした。午前十時の開店と同時に、どっと市民が詰めかけ、



D51 記念

'97信州キャンペーン

秋色信州

SL D51-498

「善知鳥峠号」

運転記念



塩尻

かえり

岡谷

ゆき

東塩尻

発売日共2日間有効 220円

D51「善知鳥峠号」▲
記念乗車券

SL「D51 498」善知鳥峠号 記念乗車証

●運転日=平成9年11月22日(土)・23日(日)・24日(月) ●運転区間=中央本線 塩尻駅~岡谷駅間(辰野経由)



D51「善知鳥峠号」
車内で配られた記念乗車証

[D51 498]

D=動輪の数・4軸を表す。
51=炭水車(テナダ)付き機関車形式を表す。
498=製造番号を表す。

D51 498号蒸気機関車

D51形式は、数ある蒸気機関車の中で最も製造両数(1,115両)が多く、けん引性能外観共優れ、「デゴイチ」の愛称で多くの人達に親しまれている蒸気機関車です。

機関車諸元

重量	機関車運転整備	79.20t
	炭水車運転整備	46.40t
長さ	最大	19,730mm
幅	最大	2,936mm
高さ	最大	3,980mm
動輪直径		1,400mm
最大馬力		1,280ps
最高速度		85km/h
石炭積載量		8t
水タンク容量		20m ³
重油タンク容量(重油併燃装置用)		1,500ℓ

(表)

(裏)



SL 運転



■ SLの出発のたびに
演奏でイベントを
さらに盛り上げた
ブラスバンド
市内小学校の
皆さんの協力

■ 力強い勇壮な太鼓で
さらに盛り上がる



沿線は写真・ビデオ撮影で大にぎわい

糸魚川へ市民号出発

子供からお年寄りまで160人

塩尻市と姉妹都市提携を以て糸魚川に向かったが、大
 一からの花束贈呈など、市
 民号の南小谷―小湊間が強
 民らの厚い歓迎を受けた。
 風により遅れ、白馬駅で
 立ち往生するハプニング発
 生。しかし同駅からバスに
 乗り換え一行は、糸魚川
 長を団長とする一行約百六
 十人は、団体専用特別列車
 に無事到着。ひすいレディ
 子供からお年寄りまで、幅
 一からの花束贈呈など、市
 民号を企画。姉妹都市提携
 十周年記念での運行以来、
 二度目。また、列車による
 市民号は初めてとなる。
 しかし、大糸線は、低気
 圧による強風のため、南小
 谷―小湊間で運転を見合わ
 せた。このため、市民号も
 白馬駅で約二時間半ほど天



大糸線経由が決まった「塩尻市民号」に使用する団体専用列車



糸魚川へ 楽しい旅



市、糸魚川に向けて市民号が出発。楽しい車内、
 盛大に迎えてくれた糸魚川市の皆さん。市民号
 人気。



コンコースの飾り付け

— 記事提供 / 読売新聞社・長野日报社・市民タイムス社 —

☆各マスコミに掲載
市民に親しまれる塩尻駅に…!



リサイクル自転車が並んだ販売コーナーは大盛況

塩尻駅前のリサイクル自転車の販売抽選会場には、修理された放置自転車がずらりと並び、千五円という低価格も手伝い大人気だった。集まった人たちは、ペダルの回転やブレーキの掛かり具合などを確かめながら、気に入った自転車を選んでいた。キャンペーンでは駐輪場の清掃や花壇周辺の生け垣づくりもおこない、駅前の環境美化に努めた。

3月 放置自転車を販売

JR塩尻駅前など 駐輪場快適利用へ催し

色とりどりに…! コンコースも華やか

1月



JR塩尻駅のコンコース広場に七日、高さ約三メートルの三九郎がお目見えした。正月の塩尻の玄関口を飾る三九郎

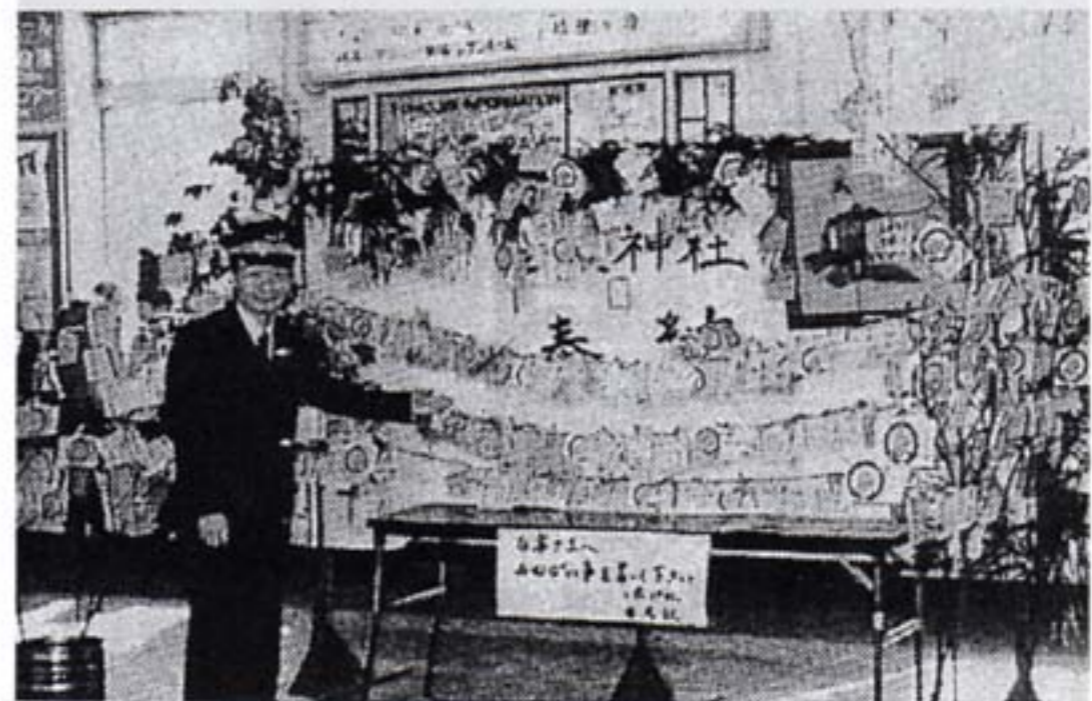
塩尻駅に3メートルの三九郎

を彩り、訪れる乗降客が目を留めている。三九郎は三年ぶりに設置した。松を円すい形に組み合わせ、だるまやしめ縄で飾りつけ、一年の無病息災の祈りを込めている。同駅はとし開業九十五周年を迎え、記念式典の開催や記念誌の刊行のほか、駅移転十五周年を兼ねオレシカードの発売も予定している。

2月

願い事は塩尻駅で

駅員手製の絵馬、受験生に人気



塩尻駅にこいのぼり

塩尻駅コンコースを飾った鯉のぼり

4月

小学生ら電子オルガン演奏

塩尻駅95周年で記念コンサート



今年で開業九十五周年を迎えるJR塩尻駅(一ノ瀬駅)は二十日、電子オルガンによる記念コンサートを開いた。駅利用者ら多くの人が見守るなか、オグチ楽器(本社・岡谷市)の音楽教室に通う小学生らが、電子オルガン演奏を披露した。開業95周年を記念して塩尻駅前で開かれた電子オルガンコンサ

コンコースの飾り付け

4月



書道展の開催

7月



「2人で160歳」今年も
山本、菌部さんの写真展

二人展の開催

展示会場で知人と花談議をする菌部さん(左)と山本さん

手作りのとん汁で感謝

JR塩尻駅が移転15周年



駅移転15周年を記念してJR塩尻駅(一ノ瀬駅)駅舎は十七日、同駅コンコースでとん汁サービスを行った。同駅職員が手作りのとん汁を配って駅利用者へ感謝を伝えた。同駅は、みどり湖駅開業などに伴って一九八二(昭和五十七)年に現在地に移転。十七日ちょうど十五年目を迎えることから、今後も駅を多くの人に親しみやすいとん汁の無料配布を企画した。コンコースでは、同駅職員ら五人が「とん汁どうですか」「食べてみてください」と駅利用者へPR。~~~~~

5月

本場に負けない華やかさ

七夕飾り



8月

駅前とコンコースにはなやかな七夕飾り

6月



さつき展の開催

9月



たのしいぶどう狩り

コンコースの飾り付け

10月

赤彦の下宿
「牛屋」の再現



塩尻駅コンコースに再現された赤彦の下宿「牛屋」

短歌フォーラム開催を前に

塩尻駅に「牛屋」再現

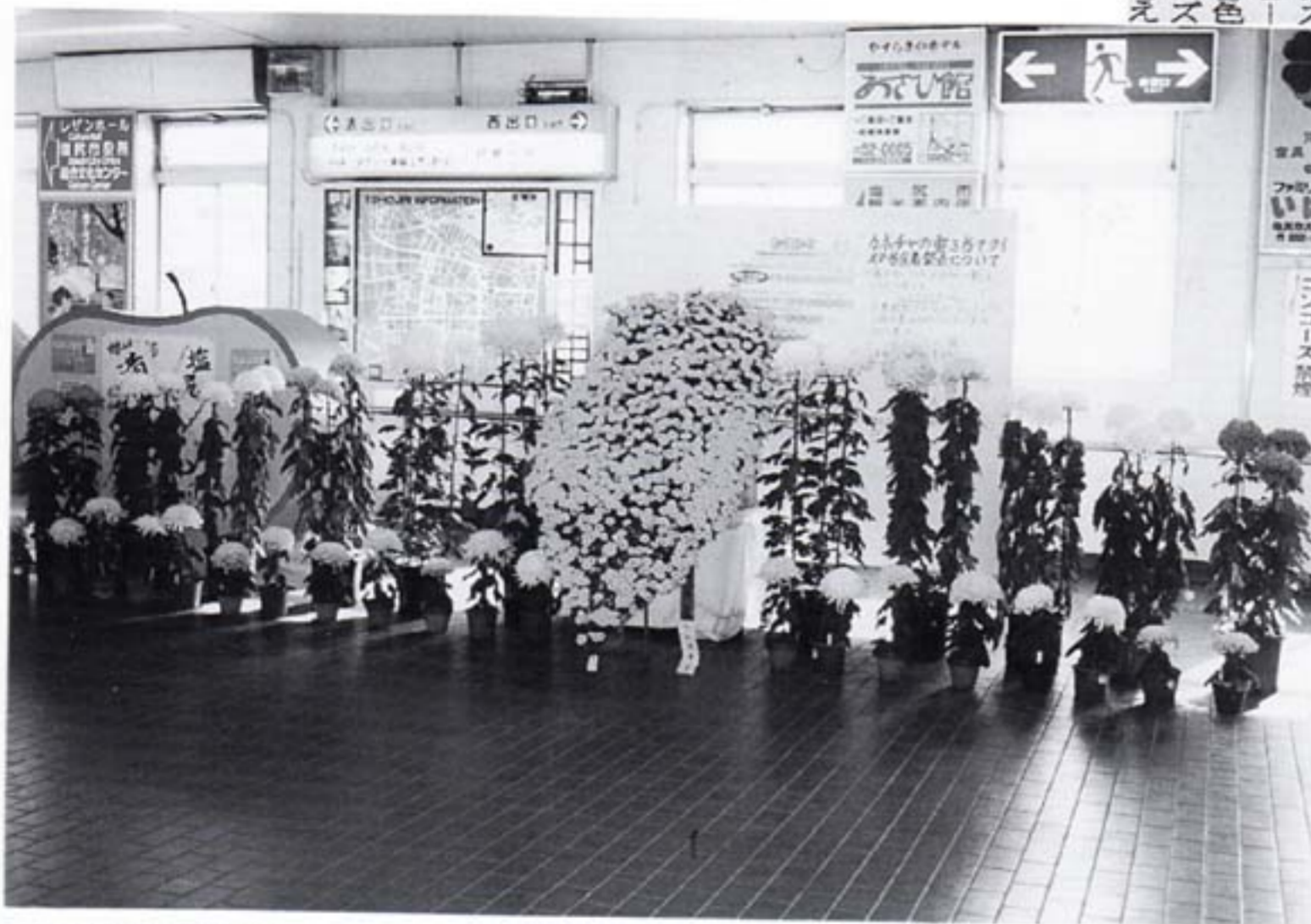
第十一回全国短歌フォーラム・塩尻の開催を前に、JR塩尻駅は十四日、同駅コンコースに、アララギ派の歌人・島木赤彦が下宿していた「牛屋」を再現

浮かべている。

牛屋は、明治末期に広丘

小学校長を勤めていたころの赤彦が、学校近くに開借りしていた下宿の屋号。地元青年らに短歌や文学を教えていたほか、多くの歌人も牛屋を訪れ、サロンの場所でもあった。

同駅にお目見えした牛屋は、駅職員十五人が一日かけて造り上げた。実物の約三分の一の大きさで、部屋のほかに庭も再現。庭には本物のスチコロんだ音色するススごもぞえ



▲ 菊香る季節
コンコースにも芳香を放つ

11月

○…温かい豚汁をどうぞ。塩尻市のJR塩尻駅（一ノ瀬陸奥駅長は同駅開業記念日の十五日、駅前で豚汁を無料サービスし写真。駅利用者が温かい豚汁に舌鼓を打った。

温かい豚汁に舌鼓

塩尻駅でサービス

形なべを用意し、ゴボウ、ニンジン、サツマイモや同市片丘の県畜産試験場で開発した豚肉を入れ、約四百食を作った。午後二時すぎからサービスを開始。この日は、北風が吹く肌寒い一日で、下校途中の高校生は「体が温まるし、とてもおいしい」。会社員も師走の慌ただしさをひととき忘れて、豚汁を味わっていた。

12月



塩尻駅移転15周年を記念して豚汁のサービス

塩尻玄蕃まつり

例年にない
盛りあがり

真夏の夜の祭典!!



息の合った踊り披露



久しぶりに真夏の祭典が開かれた1日、大門商店街で行われた年に一度の踊りの祭典。4000人の市民らが暑さを忘れて踊り続けた。



■平成9年8月1日(金)
恒例の玄蕃まつりが幕あけ。
真夏の市内にくり広げる玄蕃おどり。



ぶどう狩り・お茶会 (田川高校)

短歌フォーラム

長旅の疲れに一服

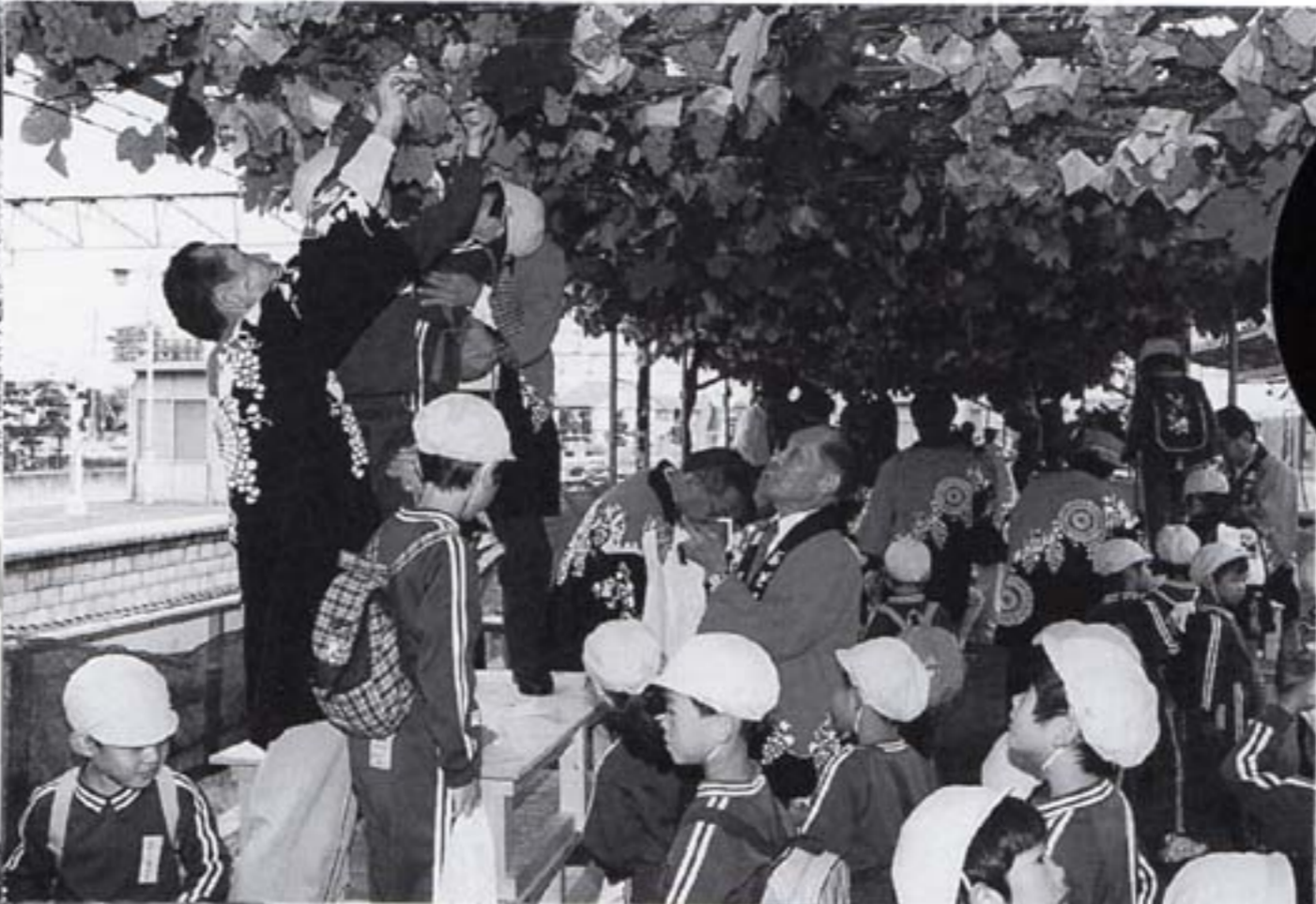
短歌フォーラムin塩尻

遠方からの参加者に抹茶を振る舞う茶道部員



の里へまたのお越しを
大回りの参
加という清田
せいさんさん
塩尻市議会
部員は二ツ
フォーラムを
市民全体で盛
り上げている

第十一回全国短歌フォーラムin塩尻は昨日、歌シンポジウムなどのほかに、会場の一色には、歌を詠める短歌ファンが掛けたとされる自画像も



ホーム ぶどう 狩り

ブドウの香りに 笑顔がこぼれる

塩尻駅で収穫祭

ブドウの収穫最盛期を

の収穫を楽しんだほか、ラメルローちび兵衛を特別列車の乗客に無料配布して、ブドウの里「塩尻」をPRした。三・四番ホーム北端にある同駅名物のブドウ栽培昭和六十二年、市、商工会、塩尻、塩尻農会、塩尻商會が主催した収穫祭。



ブドウの収穫を楽しむ園児たち

の後、ブドウ狩りを体験した。園児たちは駅構内に持ち上げてもらい、気に入った袋をほめて取り取った。三・四番ホーム北端にある「あまの」の利用客にも無料配布。この日おこなわれた短歌フォーラムの参加者も列車から大勢降り立ち、甘い香り噴くブドウ狩りを楽しんだ。

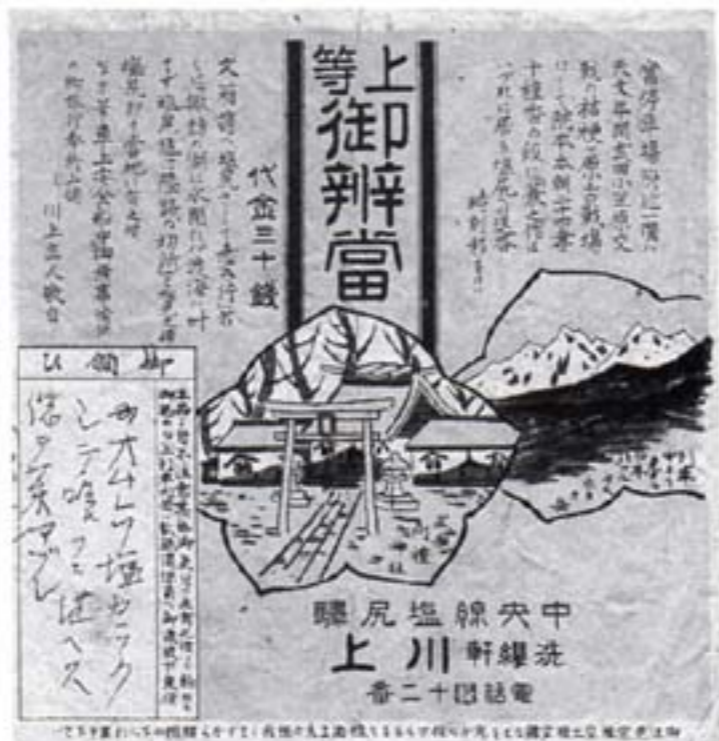


塩尻駅95年の歩み

—資料提供団体/塩尻市役所・信濃毎日新聞社・株カワカミ—

- 明治39年 8月15日
塩尻停車場の「構内立売り」、川上源一（塩尻村町区）によって始められる。

1906年
明治39年



- 明治35年 12月15日
篠ノ井線、全線開通し、開通祝賀会を行う。

1902年
明治35年

○鹽尻驛開通祝賀式
(昨十五日午前八時十分鹽尻特定)
唯今鹽尻停車場構内に於て松本塩尻間鐵道開通祝賀式舉行中なり來賓三百餘名來り觀るものまた山の如く非常の盛會なり

当時の新聞記事

- 明治42年頃
この頃、塩尻停車場を中心にして、大門の街形成される。

1909年
明治42年頃



駅前十字路付近



- 明治39年 6月11日
この日の7時25分、中央線の列車、初めて塩尻停車場に到着する。

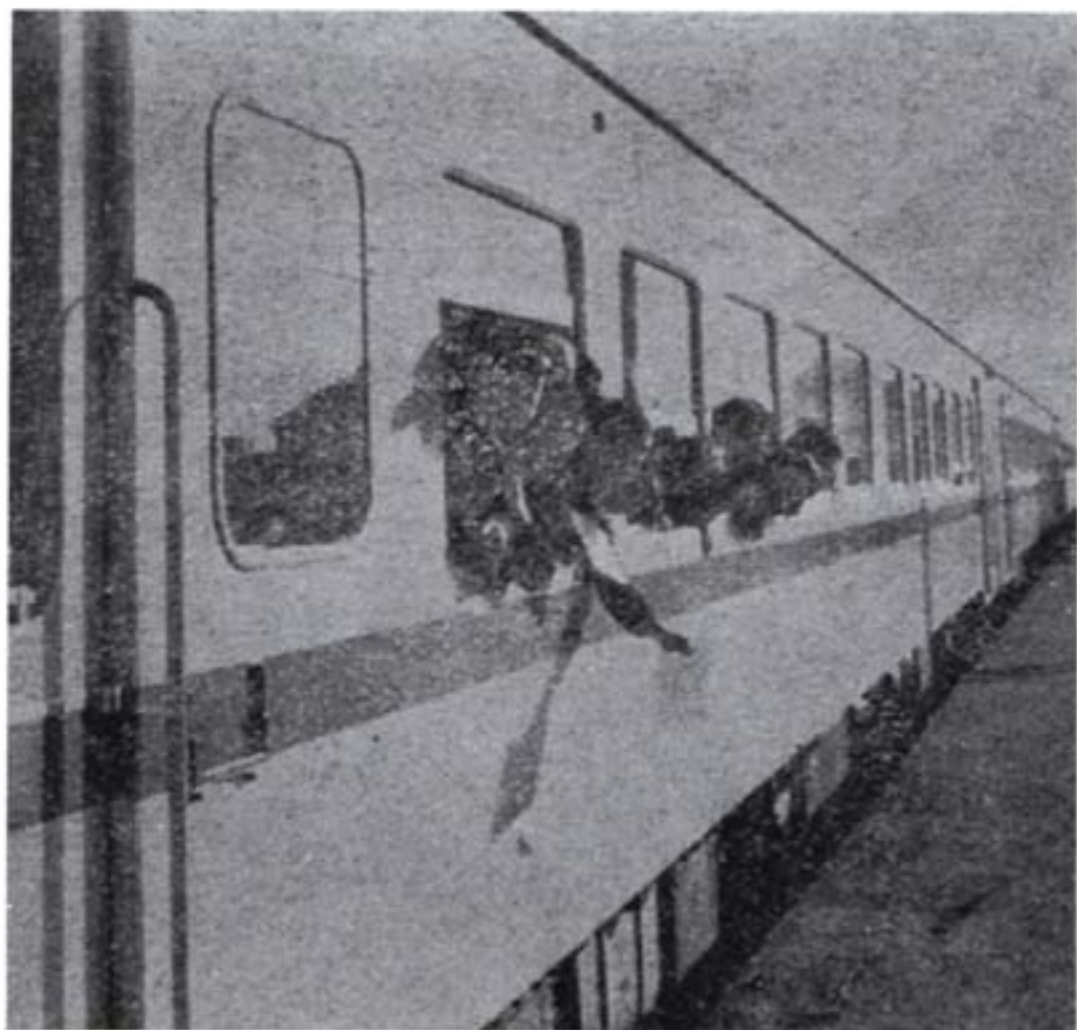
1906年
明治39年

○岡谷塩尻間列車
上野駅午後五時四十分長野行下り一番初列車少く後して發車したり、乗客比較的多からざりしも岡谷より精進湖を来たしたる、岡谷にては今回の開通に際しては何等設備を為さず、前夜の風に一掃されたる空は日本晴れの天候を呈し涼氣自ら清く開通式日を眺めんとすべし、忽ち長野に着きたるに此所下車する者多数をみたり、時未だ早かりし爲めが停車場に初列車迎へたる人々は甚だ多からざりし、車窓より見たる長野は萬國旗に裝飾されたる橋頭駅の新道筋に四五本街の屋根を被せて朝風を翻り、長野と岡谷間の新道筋に架設されたる橋頭駅には國旗交々ありてお祭の光景山野の間に彩られたり、上伊那郡書記小口権一氏伊那警察分署長藤原大治氏伊那宮村武井興一氏等當日の來賓知事代田横田

世記官を過ふると此所より乗込み小野に下車して待受けたり長野にて上り貨物列車行進ひたり、長野附近より川崎村へ来て田面一橋に對面ははれ柱を踏込作業中をみる、小野驛にては驛前に樹木を植ゆると人夫等立寄り居たり、又構内貨物下し場にては式場を設くとて所備小車、全驛附近は既に掃埃済みたる水田多く、筑摩地村は恰も掃埃中なり、前代かき場の見舞の風車に驚きて逃走する雉鳥止るも氣の毒の思ひしたり、延長一哩餘の善知鳥山隧道は煙火を点せらるるまよに通過したり、塩尻着七時十九分は後れて七時廿五分到着したり、鹽尻にては岡谷と同じく今回の開通に際しては何等の設備もなし、全驛驛所は早く設けられありたれば今回別に設備されたるを見ず、(十一月九日)

■昭和34年12月13日
長野～名古屋間に急行「しなの号」運行開始。

1959年
昭和34年



■名古屋まで鉄道が開通し、桔梗ヶ原のブドウ（コンコード種）を初めて名古屋へ出荷する。

1911年
明治44年



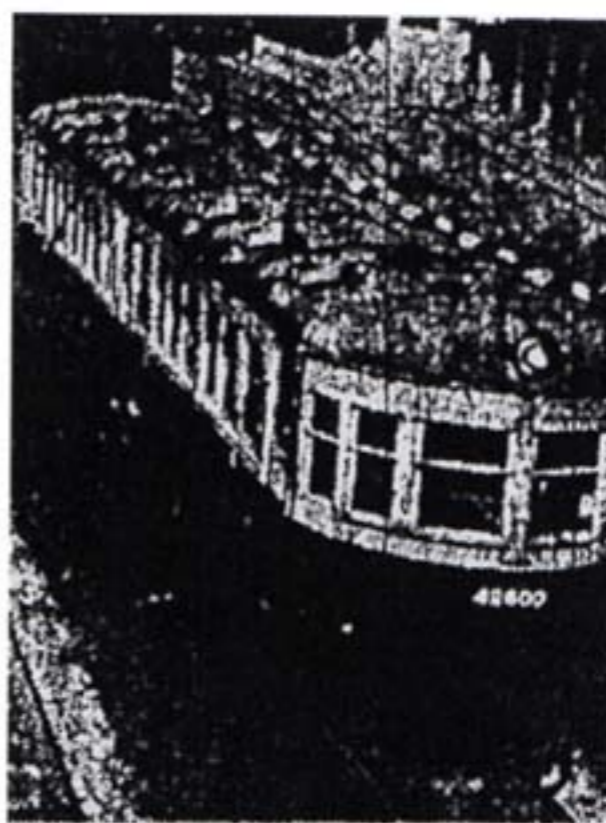
■昭和35年4月25日
中央東線急行列車「アルプス号」運行となり、塩尻～新宿間の所要時間4時間。

1960年
昭和35年



1956年
昭和31年

■昭和31年12月25日
篠ノ井線、塩尻～明科間に気動車の運行始まる。



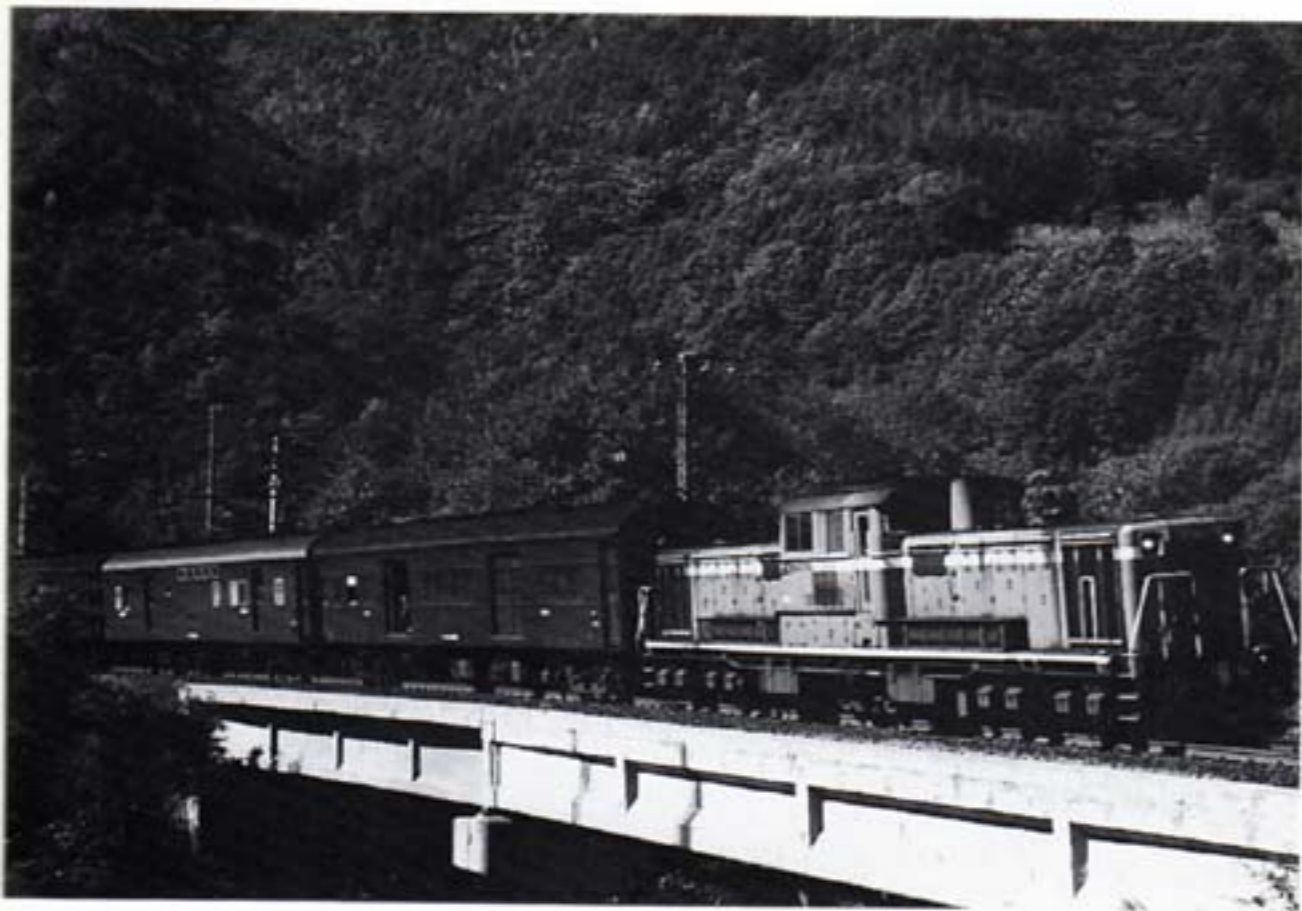
▶ S 31・12・25 信濃毎日新聞

中央線にディーゼルカー
篠ノ井線、塩尻～明科間にディーゼルカーが運行されることになった。初めて運転されたディーゼルカー（松本駅で）＝電送

■昭和40年10月1日

篠ノ井線、篠ノ井～塩尻間ディーゼル
機関車になり、旅客列車無煙化となる。

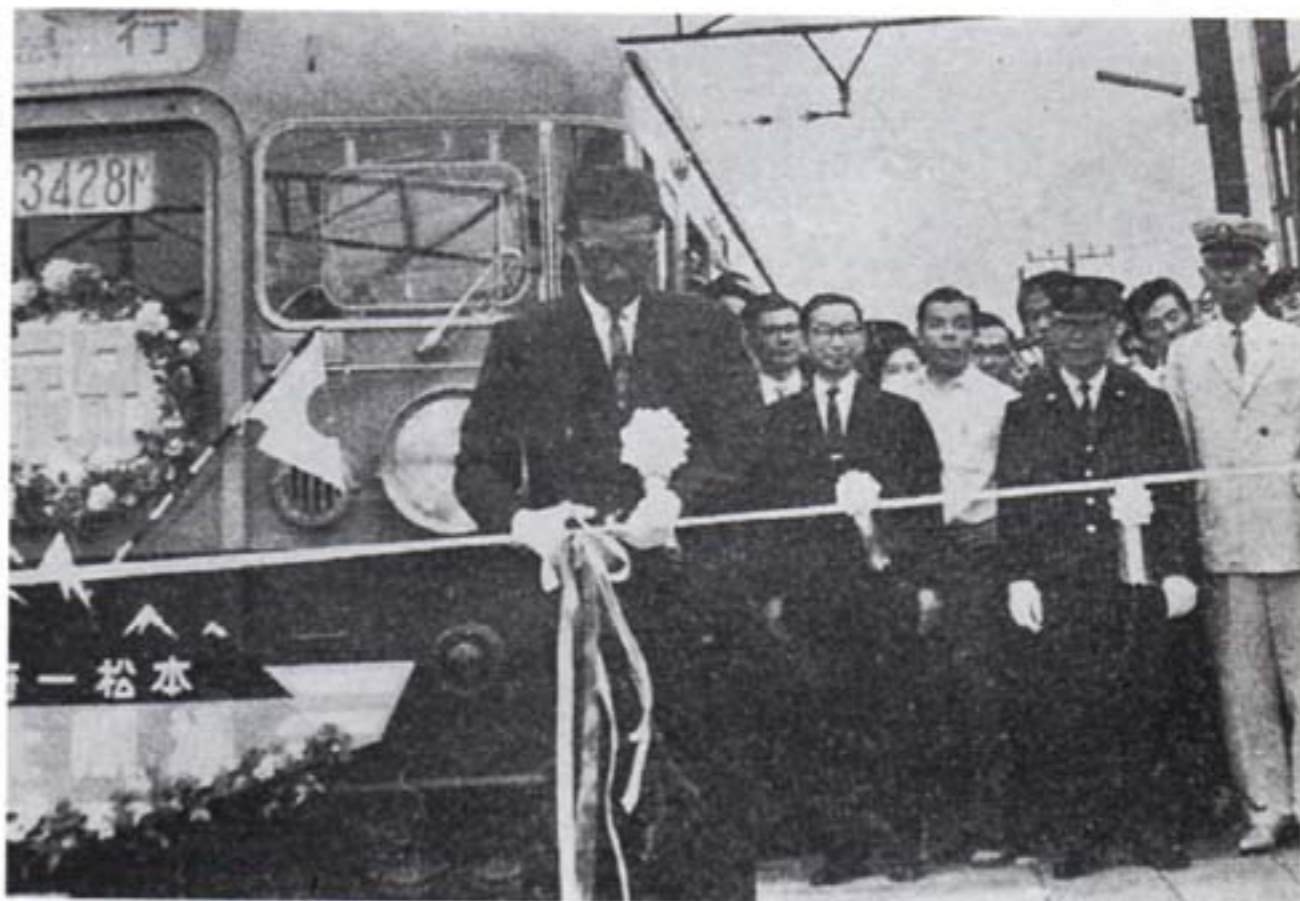
1965年
昭和40年



■昭和39年9月15日

中央本線、甲府～松本間の鉄道電化完
成。

1964年
昭和39年



■昭和40年3月

篠ノ井線、松本～塩尻間鉄道複線工事
完成。

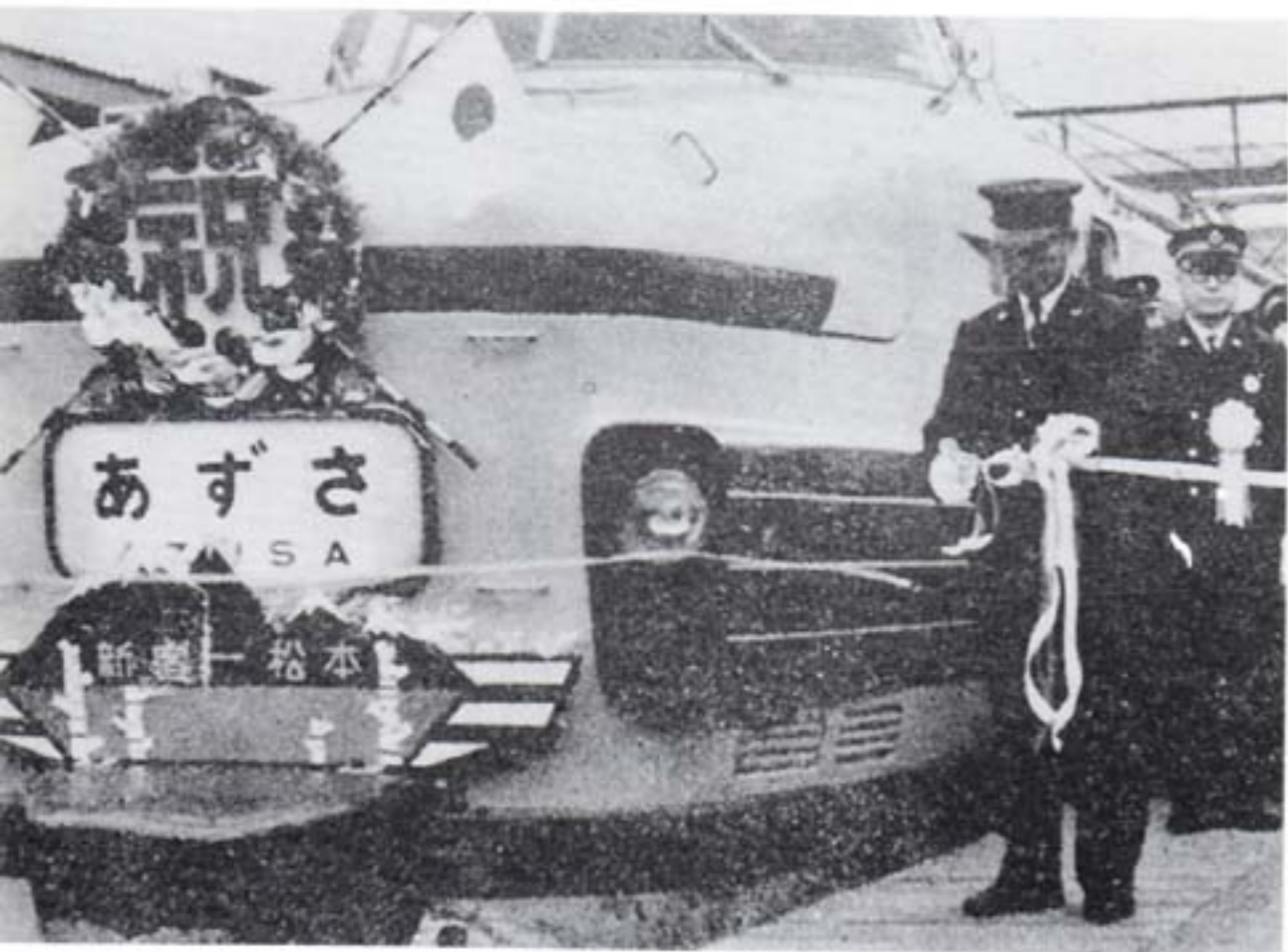
1965年
昭和40年



■昭和41年12月12日

中央本線、新宿～松本間に特急「あず
さ号」運行開始。

1966年
昭和41年



明

特急の停車を祝って花束を贈る



東京へ日帰り 特急が塩尻駅に停まる

▲ 広報しおじりより

1972年
昭和47年

■ 昭和47年10月2日
塩尻停車場開業70周年の記念行事を行う。

秋のダイヤ改正で、松本―新宿間の特急「あずさ」が上下四本停車することになりました。ダイヤ改正初日の十月二日朝、市長や関係者百余人がホームに整列、塩尻高校のアラスタバンドに迎えられ「あずさ二号」が停車。機関士と車掌さんに色あざやかな花束を贈り、特急停車を祝いました。塩尻駅は中央東、西線の分岐点として交通の要所であり、特急の停車は、市民の日頃からの願いでした。

《塩尻駅開設70周年を祝う》

また、この十二月十五日で、塩尻駅は開設七十年を迎えますが、特急停車を兼ね、代々の駅長さんや関係者が集まり、七十周年の記念式典をおこないました。

「汽笛一声新橋を……」の鉄道唱歌がよく知られているように、汽車が初めて発車したのは新橋駅、明治五年でした。それに遅れること三十年、明治三十五年、篠ノ井線が松本から延長されたのにもない塩尻駅が開設されました。

乗降客も年々増えており、一日約四千人、また貨物の取り扱い量も一日約八百五十トンになっています。

■ 昭和47年10月2日
塩尻駅にはじめて特急「あずさ号」停車する。

1972年
昭和47年



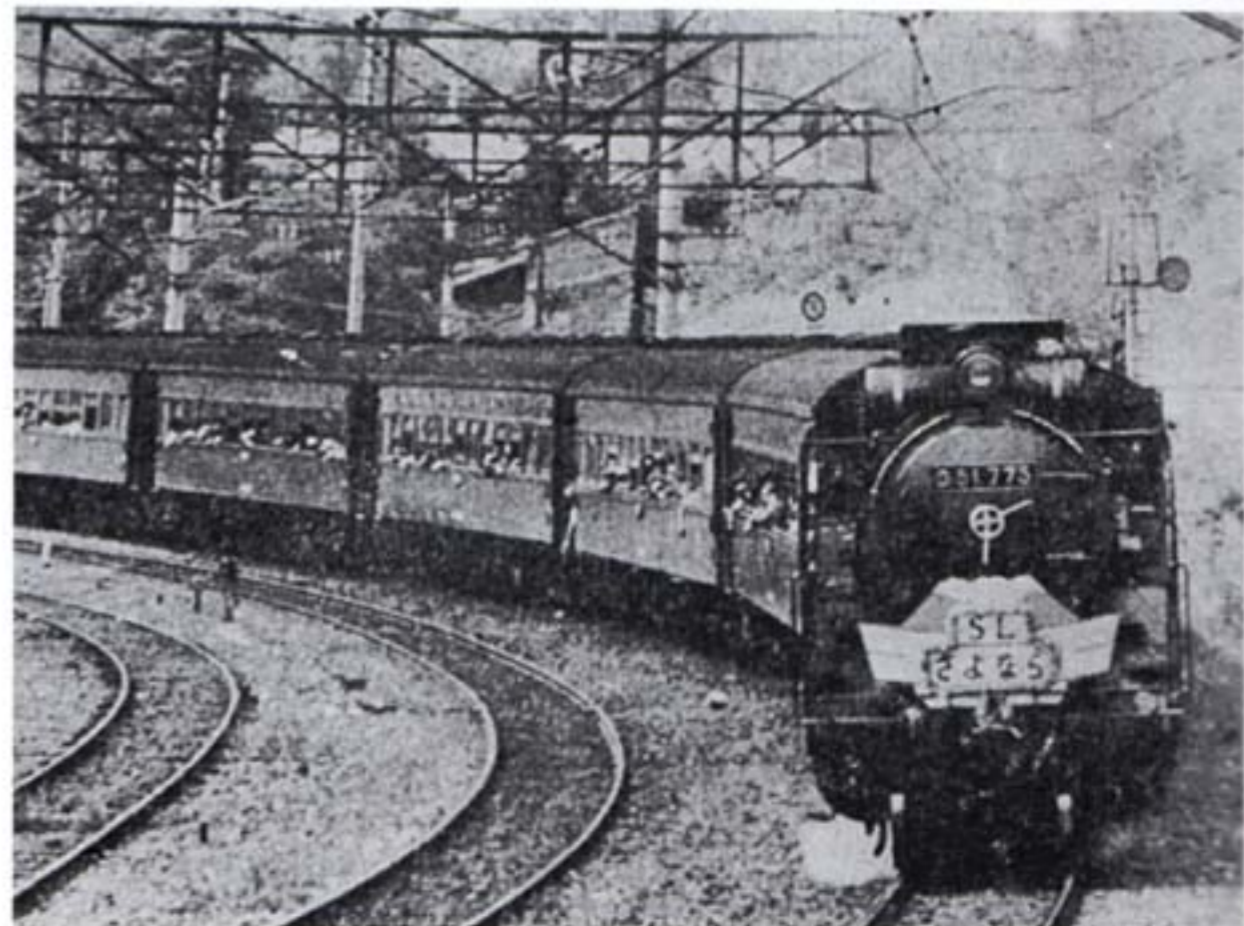
■ 昭和43年10月1日
中央本線、長野～名古屋間に特急「しなの号」運行開始。

1968年
昭和43年



■ 昭和45年2月22日
篠ノ井線 D51機関車さよなら運転。

1970年
昭和45年



1982年
昭和57年

■昭和57年4月22日
中央線、岡谷～塩尻短絡線塩嶺トンネル（5,994メートル）貫通する。



■昭和48年7月10日
中央西線、名古屋～塩尻間の鉄道電化完成。

1973年
昭和48年



■昭和48年8月26日
中央本線、塩尻～木曾福島間に「さよならSL」D51機関車運転される。

1973年
昭和48年



■昭和58年7月5日

中央東線、岡谷～塩尻短絡線（塩嶺ルート）運行を開始する。

1983年
昭和58年

■昭和57年5月17日

塩尻新駅営業開始。駅前広場オープン。

1982年
昭和57年



▲ 出発式テープカット

座席回転の音消えて...

信州の交差点、喜びと不安と

塩尻新駅

新駅開業もあって特急「しなの号」の運転士に花束を贈るミスウィン

記念券へ徹夜の列

67.5.17夕刊



▲S 57・5・17
信濃毎日新聞

大門口になる「客の流れ」

「信濃毎日」1972年5月17日夕刊の記事。塩尻新駅開業を記念して、特急「しなの号」の運転士に花束を贈るミスウィンが行われた。また、記念券への徹夜の列が形成された。記事は、新駅開業による交通の利便化と、それに伴う不安をテーマに、信州の交差点を論じている。

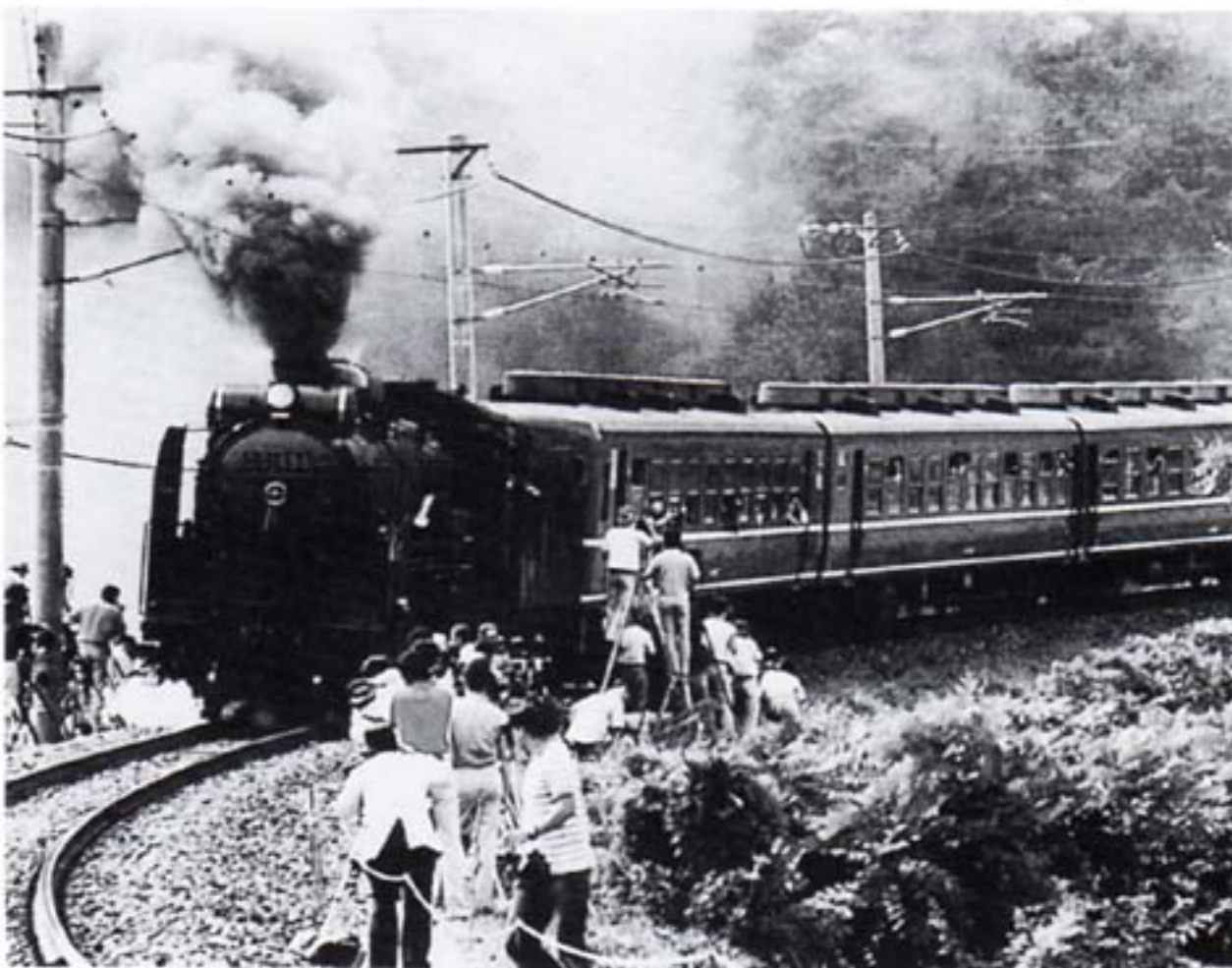
■平成3年8月2日
塩尻駅臨時グリーンカウンター開設。

1991年
平成3年



■平成5年7月23日～25日
松本～辰野間にSL信州博「アルピー号」運転。

1993年
平成5年



▲D51の勇姿に大勢のファンが…!

■昭和62年4月1日
国鉄分割民営化により、11の民間会社・法人発足。

1987年
昭和62年

▶S62・4・1 信濃朝日新聞

新生JRがスタート
11の民間会社・法人 経営の効率化が柱に

国鉄を分割民営化した11の民間会社・法人は、4月1日、それぞれが発足した。国鉄の経営を継承する11の民間会社・法人は、それぞれが独自の経営方針を打ち出し、国鉄の経営を継承する。また、国鉄の経営を継承する11の民間会社・法人は、それぞれが独自の経営方針を打ち出し、国鉄の経営を継承する。

県下は三社体制に維持・存続に不安残し

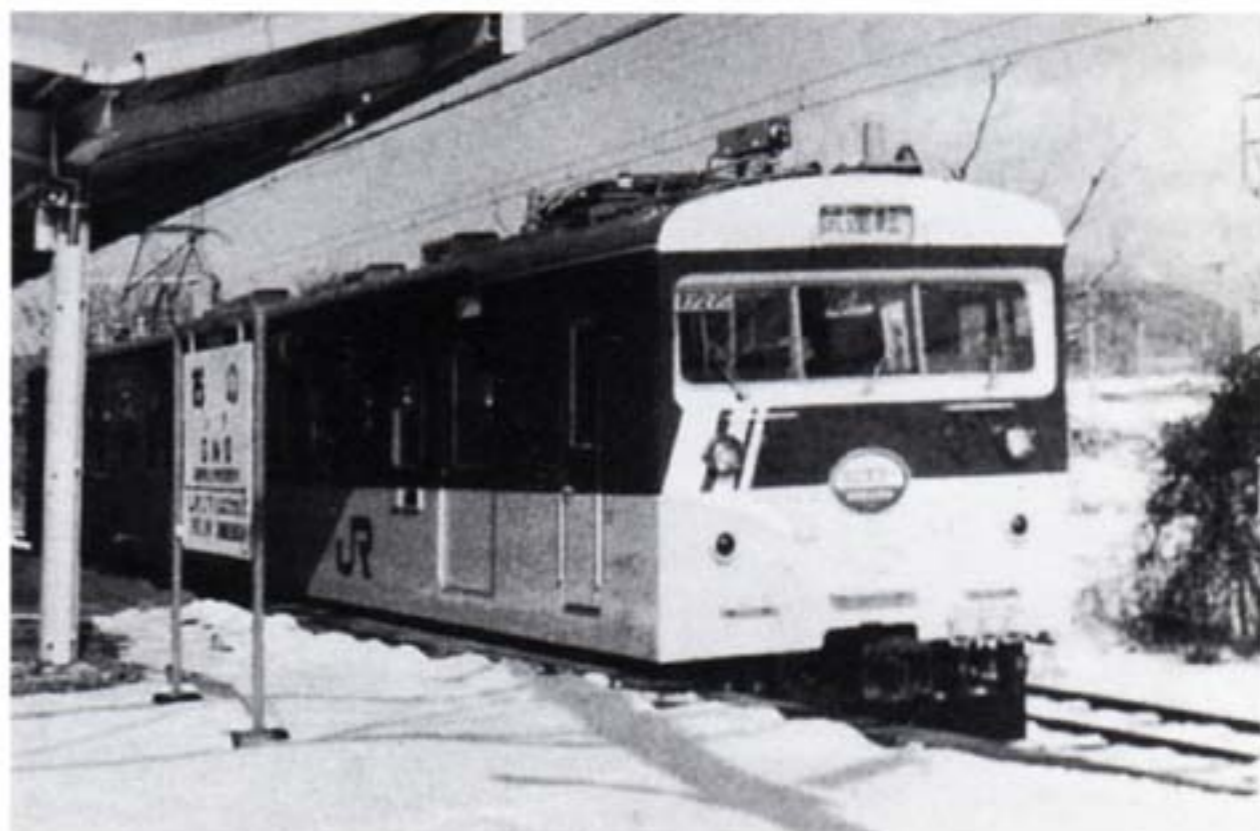
国鉄を分割民営化した11の民間会社・法人は、4月1日、それぞれが発足した。国鉄の経営を継承する11の民間会社・法人は、それぞれが独自の経営方針を打ち出し、国鉄の経営を継承する。また、国鉄の経営を継承する11の民間会社・法人は、それぞれが独自の経営方針を打ち出し、国鉄の経営を継承する。



◀JR東日本 出発式

■平成2年3月10日
塩尻～辰野間、ワンマン運転開始。

1990年
平成2年



■平成8年3月16日
ダイヤ改正により「スーパーあずさ」
塩尻停車。
「スーパーあずさ」出発式挙
行。
(記念オレンジカード発行)

1996年
平成8年



■平成8年11月22日



塩尻市民号で糸魚川市へ出発

塩尻市民号に200人

■平成8年
12月1日
新型しなの
営業運転開始。

記念
オレンジカード▶



■平成5年12月23日
新型あずさ号営業運転開始。

1993年
平成5年



■平成6年5月2日
びゅうプラザ塩尻で海外旅行の取扱い
開始。

1994年
平成6年



タンタン、
駅で旅の計画を練る。



塩尻駅の概況



住 所 塩尻市大門八番町九一
 営業開始 明治35年12月15日
 新駅開業 昭和57年5月17日
 乗降人員 一日平均 四、二三四人
 (平成八年度)



■ 記念入場券

塩尻駅開業95周年記念



塩尻駅

普通入場券 140円

旅客車内に立ち入ることはできません。
発売時刻から2時間以内1回限り有効

記念オレンジカード

EF58「善知鳥峠号」運転記念



◀ IN オレンジカード1000

JR東日本長野支社

SL D51-498「善知鳥峠号」運転記念



◀ IN オレンジカード1000

JR東日本長野支社

オレンジカード1000

塩尻駅新駅移転15周年記念



◀ IN 発売額 ¥1,000

JR東日本長野支社

塩尻駅開業
95周年記念



◀ IN 発売額 ¥1,000

JR東日本長野支社